

本古替歌吾其座薩 特115

838

宮田秋
山露
杉野風
牧野風

新曲譜

新曲譜

山科

別冊 (新曲譜)

秋風會發行



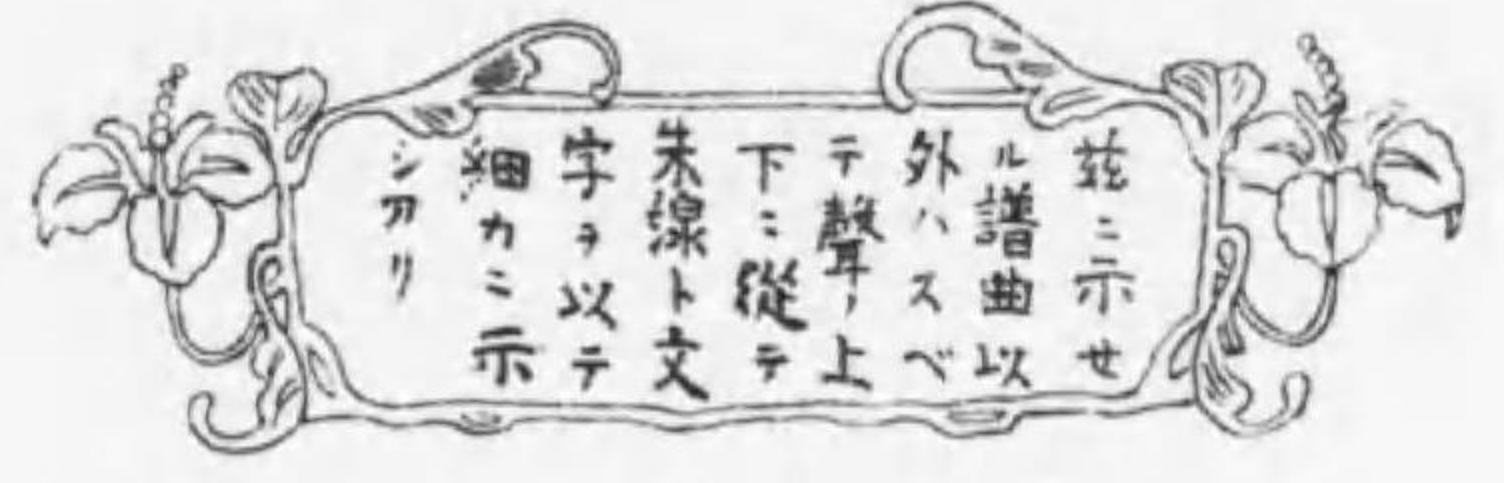
~~271~~
~~181~~

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



◎本書の特長 文字、左方し印、横ハ、彈き方合、手段別ヲ示セリ



- 譜曲
- 切
 - 大干
 - △ 連続中干
 - ▽ 單獨中干
 - ▽ 干ノ崩
 - ▽ 干ノ崩
 - 干ノ吟替
 - 干ノ吟替
 - ▽ 干ノ裏
 - ▽ 干ノ裏
 - 聲ヲ止メル
 - 聲ヲ張リ上ケル
- 注意
- ▽ 聲ニヤ、カヲ入レル
 - ▽ 聲ニ頓ル強クカヲ入レル
 - ▽ 聲ヲ低ク
 - || 急
 - || 緩
 - || 一本歌ニ字句ノ誤リアリハ、革
 - || 譜曲トナス
 - || 一本書ノ譜曲ハ、編者等感ス
 - || トコロアリ、作者及ビ斯道
 - || 先輩ノ諸大家ニツノ高見
 - || ヲ問ヒ而シテ、茲ニ新ニ作曲セ
 - || シモノ、ニツキ自今、本會ノ
 - || 譜曲トナス
 - || 一聴者ハ、黙聴スベシ、掛聲ハ
 - || 一切ナスベカラズ
 - || 一彈奏中、歌中ノ人ノ心得ル
 - || 者ノ責任ナリ
- 秋風會
- 宮田秋堂
杉山露堂
牧野風堂

持115
838

此科の別が (禁転載) えね (聲大人作)

秋の香一が、秋の戸や、都に近
 けの、か、秋老、
 文の道又達人の、世に、
 大い、の、雲不審や、未穂、
 掃る、双の、腰に、
 浮き、
 且には、
 風、
 後、
 狂

1.11.28.

いよには鴨川の火影を追ひ、
 放浪遊治に日は送る有
 撃つに猛き鉄鎧も、
 腐る果て無念なる今も
 帰る後朝や、半廊にうのさす、
 夢を来せたる駕
 ぬ中、微酔の面朝風に吹かせたまはりに木の門、
 うつろ
 いまに秋部屋へ、へびくく松枕、
 正体たゞ見えたりける、
 あら浅猿の次女をよ、
 早一年の明暮を、
 日はくわの御為に、
 明日は改まらず念が、
 晴す大

秋の企して、
 秋子女思ふ親心、
 女の誹らに身
 かかず、
 密に頼む甲斐なきも、
 此また似氣来なき
 有柳は、
 見鼻はえたる心や、
 引起し膝押し
 追は、
 處なる脛に聞えつと、
 山とをらつて我
 詰りける、
 良雄は辛くも起きたまはらば、
 酔眼朦
 籠るゝ定まらず、
 手拍子あはれも笑ひ、
 夕は葉
 々への仰、
 伏討つたは鳥の易し、
 後とら

は。今。昔。ま。あ。酒。戦。の。敵。は。節。の。花。任。意。は。ま。優
 後。禮。神。鏡。ふ。若。比。者。の。満。た。し。ま。だ。大。盃。が。乾
 す。美。事。は。敵。を。つ。ら。大。時。を。う。た。は。は。ま。く。小。明。交
 脚。を。伸。し。は。ま。の。鞍。邊。の。馬。が。つ。は
 け。ま。ま。の。舞。に。あ。は。ま。は。ま。あ。ま。り
 が。ま。あ。の。場。に。馬。を。口。替。の。御。事。を。ま。い
 け。ま。ぬ。あ。ま。の。目。苦。勞。が。ま。の。後。額。に。寄

だ。は。の。回。の。杖。だ。は。ま。の。世。の。障。が。分
 笑。は。及。さ。ん。御。の。根。勿。体。な。ま。御。慈。心。を。り
 少。は。御。も。た。ま。し。と。打。越。さ。ん。ま。あ。ま。は。良。雄。は。怒
 世。の。舞。も。う。け。あ。ら。噴。の。女。を。伏。は。か。た。負。ふ。高。家。の
 世。を。ま。り。及。は。ま。の。心。を。の。伏。討。が。ま。の。世。は。杖。に
 心。を。強。さ。ら。不。自。の。ま。は。み。不。杖。の。極。唯。東。の。向。も。並。ま。は
 世。の。改。を。離。別。せ。ん。と。ま。の。親。が。ま。の。あ。ま。ま。の。妻。の。何

新作伊麻公

薩摩琵琶歌集古本目錄

色 色 色	王 色 色	吹 照 色	母 雪 色	瀬 中 色	瀬 大 色	石 重 丸	阿 中 島	本 能 寺	白 虎 隊	國 手 法 衣	國 手 法 衣
色 色 色	王 照 色	吹 雪 色	母 中 誠	瀬 中 佐	瀬 大 衣	石 重 丸	阿 中 島	本 能 寺	白 虎 隊	國 手 法 衣	國 手 法 衣
色 色 色	王 照 色	吹 雪 色	母 中 誠	瀬 中 佐	瀬 大 衣	石 重 丸	阿 中 島	本 能 寺	白 虎 隊	國 手 法 衣	國 手 法 衣

松山屋 赤垣源之丞 南前坂町別

山科別々 大高源音 義文本懐

錢八金價定再志古

新作乃木大將

終